

登録コード	UAB10600	開講年度	2026				
授業題目	英米言語文化AR				担当教員	伊藤 尽	
					副担当	飯岡 詩朗	
単位数	2	講義期間	後期(集中)	曜日・時限	集中・不定期		
				授業形態	演習		
信大コンピテンシー	非該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」				【授業の達成目標】		
	2 6 UAカリ・総人社・人間文化学, 2 5 UAカリ・総人社・人間文化学						
	【人間文化学】人間文化に関する文献・資料を収集・調査し分析・考察する人文学の伝統的な手法を身につけるとともに、他の学問分野の解析手法を併せて修得することによって、複雑多様化する現代社会の課題に柔軟な対応ができる応用力を有する。				人間文化に関する文献・資料を収集・調査し分析・考察する人文学の伝統的な手法を身につけるとともに、他の学問分野の解析手法を併せて修得することによって、複雑多様化する現代社会の課題に柔軟な対応ができる応用力を身につける。		
	【人間文化学】高度な言語運用能力とコミュニケーション能力を基盤として、多領域のステークホルダーと協働し、現代社会の課題に取り組みながら、独創的かつ多文化共生的な英知の創成と提案を行う力を有する。				高度な言語運用能力とコミュニケーション能力を基盤として、多領域のステークホルダーと協働し、現代社会の課題に取り組みながら、独創的かつ多文化共生的な英知の創成と提案を行う力を身につける。		
	【人間文化学】人間と社会を探究する学問分野間の総合的な知見を活かし、俯瞰的な視野で課題を捉える力を有する。				人間と社会を探究する学問分野間の総合的な知見を活かし、俯瞰的な視野で課題を捉える力を身につける。		
	【人間文化学】人間文化学に関わる地域中核人材・研究者・教育者として備わっているべき高い倫理観を有する。				人間文化学に関わる地域中核人材・研究者・教育者として備わっているべき高い倫理観を身につける。		
(2)授業の概要	本授業は、アクションリサーチ系科目である。授業では特に以下の点を重視しながら、主に英米文学文化分野から自分が選んだ問題やテキストについて英語でプレゼンテーションを行い、みなで質問し、修正し、国際学会で発表できるように訓練を行う。 1 英語文学の理解を深める。 / 2 特定のテキストに関して研究テーマを設定し、それが妥当かどうかを判断できる。 / 3 研究テーマのための資料及び資料分析の方法が妥当かどうかを判断できる。 / 4 研究テーマにかかわる先行研究の収集範囲が妥当かどうかを判断できる。 / 5 研究テーマについて考えをまとめ発表し議論できる。						
(3)授業計画	第1回：ガイダンス 第2回：英語プレゼンテーションの仕方について 第3回：英語プレゼンテーションのための原稿の書き方について 第4回：グループチュートリアル プレゼンテーション構想：イギリス文学 第5回：グループチュートリアル プレゼンテーション構想：アメリカ文学 第6回：グループチュートリアル プレゼンテーション構想：イギリス映画・アメリカ映画 第7回：プレゼンテーション：イギリス文学 第8回：プレゼンテーション：アメリカ文学 第9回：プレゼンテーション：イギリス映画・アメリカ映画 第10回：プレゼンテーション グループレビューセッション：イギリス文学 第12回：プレゼンテーション グループレビューセッション：アメリカ文学・アメリカ映画 第13回：フォローアップ・プレゼンテーション 1 第14回：フォローアップ・プレゼンテーション 2 第15回：まとめ 期末試験の有無：無						
(4)成績評価の方法	授業内でのアクティビティ50%と論文50%による。						
(5)成績評価の基準	授業内でのアクティビティ50%と論文50%による。評価点は、うまく論文が書けるようになったか。また、うまく論文が修正できるようになったかである。その度合いに応じて、合計100点で評価し、90点以上を秀、80点以上を優、70点以上を良、60点以上を可と評価し、60点未満の場合は単位を与えない。						
(6)事前事後学習の内容	計画表にそって、前回の復習や確認をするとともに、当該回の準備や予備知識の補充を事前に行ってください。						
(7)履修上の注意	英語で学びます。当然のことながらしっかり予習をした上で授業に参加してください。						
(8)質問,相談への対応	授業後あるいはオフィスアワーをお願いします。メールでアポを取っていただければ、それ以外の時間帯でもだいじょうぶです。						
【教科書】	Grussendorf, Marion. English for Presentation. Oxford UP, 2008.						
【参考書】	田中真紀子『英語のプレゼンテーション スキルアップ術』、研究社、2014年。 Wallwork, Adrian. English for Presentations at International Conferences. Springer, 2016.						